

第3回サンゴ礁保全・再生に向けての統合的沿岸管理分科会
平成20年10月16日

サンゴ礁と持続的な観光

財団法人日本交通公社
寺崎 竜雄

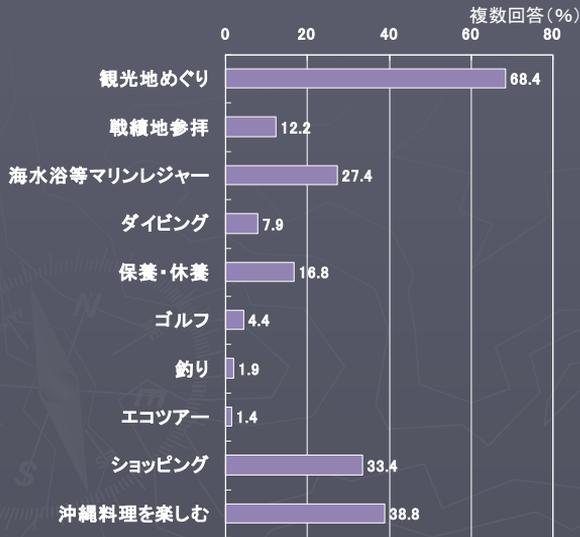
沖縄観光(入域観光客数)



復帰の年の観光客数:44万人 → 2006年:564万人

資料:沖縄県

沖縄観光(旅行内容)



海水浴:155万人/年
ダイビング:45万人/年
(県外客のみ)



海浜・海洋の資源が沖縄の大きな魅力

- ・沖縄観光のイメージの核
- ・誘客の源泉

資料: 沖縄県

サンゴ礁の貢献

- ▶ 観光を通して、沖縄経済の発展に大きく寄与
- ▶ 観光客に大きな満足感(心の恵み)



観光経済の糧を 観光利用が食いつぶす？

▶ シュノーケリングの場合

- ▶ シュノーケル技術が未熟なために、体をコントロールできずに誤ってサンゴにぶつかったり、蹴ったりする
- ▶ フィンの長さを考慮せずに立ち泳ぎをしてサンゴを蹴ってしまう
- ▶ 小さなサンゴがあるのを気づかずに立てる場所だと勘違いしている

など。

参考：WWF資料

観光利用は、資源に対して
何らかのインパクトをもたらす。

サンゴ礁と観光活動のかかわり

(開発行為を除く)

▶ 海浜・海洋レクリエーション

- ダイビング
- シュノーケリング
- シーカヤック
- 海水浴
- 磯遊び



ダイビング



- ▶ Cカード発行枚数は約140万枚。海外取得分をあわせると総ダイバー人口は200万人超
- ▶ ダイビングへの新規参入者は、横ばいから減少傾向
(社)レジャー・スポーツダイビング産業協会
- ▶ スキンダイビング & スキューバダイビング参加人口は140万人。参加率1.3%、年間平均活動回数3.6回
「レジャー白書2007」(社)社会経済生産性本部
- ▶ 沖縄県におけるダイビング事業者数1,300軒(5年前の倍増!)の声も

さて、観光の潮流に大きな変化

- ▶ これまでは周遊観光(ハレの舞台)
 - ▶ 優れた観光資源を見て回る
 - ▶ 主要スポットで記念撮影をして確認(絵はがき通り、来たという証拠)
 - ▶ そして、次のスポットに移動
- ▶ 最近では、体験観光(日常的楽しみ、興味、趣味のもちだし)
 - ▶ 自らの体験を通して、地域の資源により深く関わる
 - ▶ 地域の一步中へ、そしてより近くから資源に触れてみる